

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年10月16日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	9月の価格情報				10月の価格情報		10月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の11月上旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 見通しの価格水準 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	旬別平均販売価格	10月上旬				
		中旬	下旬							
葉菜類	キャベツ	74.19	95	81	74.19	59	・12,299t (107%)	群馬(60), 茨城(13)	→	群馬産は、出荷終盤となっており、好天により生育は順調で、大玉比率も高いことから、引き続き平年並みのまま、10月末で出荷終了の見込み。茨城産は、好天により生育は順調で、品質も良好なことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。
			(128%)	(109%)		(80%)				
	たまねぎ	88.91	98	85	88.91	62	・4,818t (111%)	群馬(55), 長野(21)	→	北海道産は、収穫作業は終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄は平年並み以上だったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は引き続きやや多めの出荷と見込まれ、シーズン当初から続く安値基調により、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
			(110%)	(96%)		(70%)				
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	93.34	69	67	93.34	66	・5,819t (82%)	北海道(95)	→	青森産は、生育は概ね順調で、稲刈りやにんじくの植え付け作業の競合がみられるものの、下旬には終了することから、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、生育は概ね順調ではあるが、稲刈りとの作業競合により、収穫作業の遅れが発生していることから、現在少なめの出荷となっているものの、月末には終了する見込みから、今後は平年並みに回復する見込み。北海道産は、8月の台風による品質低下の影響が残るものの、影響は軽微で、引き続き平年並みの出荷の見込み。
			(74%)	(71%)		(71%)				
	はくさい	93.34	69	70	93.34	68	・2,696t (93%)	北海道(87), 兵庫(12)	→	青森産、秋田産及び北海道産の出荷が平年並みまたは平年並みに回復と見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
			(74%)	(75%)		(73%)				
	ほうれんそう	287.00	294	298	136.25	280	・2,275t (91%)	青森(24), 秋田(18), 北海道(17)	→	長野産は、出荷終盤となっており、一部産地では、9月からの低温で地温が上がらないため、二毛作の生育が緩慢になり、7日ほど出荷が遅れ倒しとなっているものの、品種の切り替わりもおおむね順調に進んでいることから、引き続き平年並みのまま、10月末で出荷終了の見込み。 長野産の出荷は平年並みと見込まれることに加え、後続産地の関東産が前進気味で平年よりやや多めの出荷となっていることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
			(102%)	(104%)		(205%)				
	レタス(結球)	487.13	491	461	467.01	444	・187t (110%)	香川(18), 徳島(18), 高知(12), 奈良(12), 三重(12), 大阪(9)	→	群馬産及び茨城産は、現在出荷がピークを迎え、生育及び品質は概ね良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、8月までの天候不順による生育不良の影響が残り、一部ほ場で細株がみられるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産、茨城産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれ、秋冬作産地の市場への入荷増もあり、9月中旬より下げ基調となり、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
			(101%)	(95%)		(95%)				
きゅうり	81.96	110	80	81.96 56.81	53	・7,926t (106%)	長野(70), 茨城(15)	→	茨城産は、生育も順調で、例年11月上旬にピークを迎える産地が前進傾向となっていることから、引き続きやや多めの出荷の見込み。長野産は、出荷終盤となっており、生育及び品質は良好なことから、引き続き平年並みのまま、10月末で出荷終了の見込み。 長野産の出荷は平年並みと見込まれるものの、茨城産はやや多めと見込まれることに加え、9月是不作年となった前年を超える輸入量もあり、荷動きが鈍いことから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(134%)	(97%)		(94%)					
なす	88.72	111	85	88.72 69.44	51	・4,798t (112%)	長野(95)	→	群馬産及び茨城産は、現在出荷がピークを迎え、生育及び品質は概ね良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、8月までの天候不順による生育不良の影響が残り、一部ほ場で細株がみられるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 群馬産、茨城産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれ、秋冬作産地の市場への入荷増もあり、9月中旬より下げ基調となり、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
		(116%)	(103%)		(131%)					
ピーマン	583.95	639	557	385.11	462	・804t (131%)	群馬(33), 茨城(22), 栃木(16)	→	高知産は、好天により生育及び品質は良好で、一部ほ場でアブラムシの発生が散見されるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。栃木産は、夜温の低下で肥大が緩慢となっているものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、出荷終盤となっており、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みのまま、11月初旬で出荷終了の見込み。 高知産の出荷は平年より多めと見込まれ、栃木産の出荷は平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(109%)	(95%)		(120%)					
だいこん	670.86	778	693	461.74	606	・268t (91%)	岐阜(66), 北海道(10)	→	茨城産は、8月の曇天の影響で落花が多く出荷が安定しなかったものの、9月中旬以降の好天により生育は回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、出荷終盤となっており、生育及び品質は良好なことから、引き続き平年並みのまま、11月初旬で出荷終了の見込み。 茨城産及び岩手産の出荷は平年並みと見込まれるが、後続産地の西南暖地の生育が順調で豊作傾向と見込まれることから、現在平均並みの価格は、平均を下回って推移する見込み。	
		(116%)	(103%)		(131%)					
にんじん	158.27	142	99	158.27	75	・5,307t (129%)	茨城(60), 長野(26)	→	北海道産は、出荷終盤となっており、6月の播種の遅れで出荷がずれこんだ産地があるものの、生育は概ね順調で太物も多いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、8月の曇天雨による生育の遅れから、引き続き平年より少なめの見込み。 北海道産及び青森産の出荷が引き続き平年並み、または少なめと見込まれるが、後続産地の関東産が豊作傾向で平年より多めの出荷となっていることから、現在平均並みの価格は、今後は平均を下回って推移する見込み。	
		(90%)	(63%)		(48%)					
トマト(大玉)	152.57	146	105	152.57	84	・1,658t (146%)	茨城(32), 長野(26), 兵庫(23), 長崎(12)	→	高知産は、好天により生育及び品質は良好で、一部ほ場でアブラムシの発生が散見されるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。栃木産は、夜温の低下で肥大が緩慢となっているものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、出荷終盤となっており、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みのまま、11月初旬で出荷終了の見込み。 高知産の出荷は平年より多めと見込まれ、栃木産の出荷は平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(96%)	(69%)		(55%)					
だいこん	221.22	265	218	289.03	218	・4,226t (105%)	埼玉(29), 群馬(26), 福島(11), 茨城(11)	→	北海道産は、台風の影響もみられず、生育は順調で肥大も良好なことから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(120%)	(98%)		(75%)					
なす	232.80	287	238	298.96	238	・937t (96%)	群馬(21), 北海道(17), 宮崎(17), 大阪(11), 福島(11)	→	北海道産は、台風の影響もみられず、生育は順調で肥大も良好なことから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(123%)	(102%)		(80%)					
ピーマン	252.46	381	309	347.41	346	・3,606t (93%)	千葉(16), 福島(15), 熊本(11), 茨城(11), 青森(10)	→	北海道産は、台風の影響もみられず、生育は順調で肥大も良好なことから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(151%)	(122%)		(100%)					
なす	298.46	432	359	371.67	369	・1,133t (88%)	岐阜(23), 熊本(22), 北海道(19), 岡山(11)	→	北海道産は、台風の影響もみられず、生育は順調で肥大も良好なことから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(145%)	(120%)		(99%)					
だいこん	230.51	359	246	301.00	237	・1,944t (111%)	高知(31), 栃木(21), 群馬(19)	→	北海道産は、台風の影響もみられず、生育は順調で肥大も良好なことから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(156%)	(107%)		(79%)					
ピーマン	232.81	300	264	263.21	252	・658t (96%)	高知(25), 山梨(18), 熊本(14), 徳島(9)	→	北海道産は、台風の影響もみられず、生育は順調で肥大も良好なことから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(129%)	(113%)		(96%)					
だいこん	263.58	353	316	263.58	274	・1,154t (114%)	茨城(54), 岩手(24)	→	北海道産は、台風の影響もみられず、生育は順調で肥大も良好なことから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(134%)	(120%)		(104%)					
にんじん	296.27	364	338	296.27	303	・380t (96%)	青森(25), 茨城(16), 兵庫(9), 高知(8), 大分(8)	→	北海道産は、台風の影響もみられず、生育は順調で肥大も良好なことから、引き続き多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷は多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。	
		(123%)	(114%)		(102%)					

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg。上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。  
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。  
6 はくさいの平均価格は、上段が9月11日~10月15日(夏はくさい)まで、下段は10月01日~10月31日(秋冬はくさい)までの価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	9月の価格情報			10月の価格情報		10月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の11月上旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 → 見通しの価格水準 ← 平均価格 現時点の価格水準
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格				
		中旬	下旬						
いも類	さといも	254.79	293	272	220.97	263	・453t (90%)	埼玉(51), 千葉(27)	→
			(115%)	(107%)		(119%)			
		220.11	289	281	217.56	269	・133t (107%)	愛媛(56), 福井(10), 中国(10)	→
	ばれいしょ	111.77	103	94	96.99	92	・3,430t (87%)	北海道(99)	→
			(92%)	(84%)		(94%)			
		111.77	90	86	96.99	83	・1,496t (89%)	北海道(100)	→
			(81%)	(77%)		(86%)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。  
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもので、赤字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。  
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	9月の価格情報			10月の価格情報		10月上旬の東京都及び大阪市場の入荷量 ( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の11月上旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 → 見通しの価格水準 ← 平均価格 現時点の価格水準
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格		(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格				
		中旬	下旬						
洋菜類	ブロッコリー	485.78	476	469	408.61	421	・544t (148%)	北海道(23), 埼玉(20), 米国(12), 長野(11)	→
			(98%)	(97%)		(103%)			
		453.84	512	511	424.92	478	・162t (130%)	北海道(23), 長野(19), 米国(18), 徳島(10)	→
			(113%)	(113%)		(112%)			
根菜類	ごぼう	268.33	311	285	252.90	318	・211t (70%)	青森(65), 茨城(12)	→
			(116%)	(106%)		(126%)			
		175.79	207	204	173.20	202	・156t (96%)	青森(35), 茨城(27), 北海道(21)	→
			(118%)	(116%)		(117%)			
果菜類	かぼちゃ	151.49	150	142	135.51	143	・1,209t (91%)	北海道(98)	→
			(99%)	(94%)		(106%)			
		129.22	128	117	125.57	125	・421t (108%)	北海道(82)	→
			(99%)	(91%)		(100%)			

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成24～28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもので、赤字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック - かぼちゃの需給動向について -

今回は北海道を主産地とするかぼちゃについて紹介する。

原産地と日本への渡来  
 かぼちゃは別名「南瓜(なんきん)」とも呼ばれ、原産地はアメリカ大陸である。メキシコの洞窟から紀元前数千年前の地層から種が発見されている。コロンブスがばれいしょやたばことともに、ヨーロッパに持ち帰り世界中に広まったとされている。

日本には16世紀にポルトガル人により九州に伝えられ、17世紀には九州で栽培されたといわれている。かぼちゃの名前はカンボジアから転じたとされ、「南瓜」は中国南部の都市「南京」に由来しているといわれている。

主な種類と特徴  
 かぼちゃは大きく分けて、「日本かぼちゃ(東洋種)」「西洋かぼちゃ(西洋種)」「ペボかぼちゃ」の3種類に分けられる。

日本かぼちゃはねっとりとして水分が多く、甘みが少ないので煮物料理に使われる。西洋かぼちゃは粉質でホクホクとした肉質をしており、西洋料理に使われる。ペボかぼちゃは個性的な形をしたものが多く、味が淡泊なため他の食材と合わせて用いるか、ハロウィン等でおなじみの観賞用として利用される。

生産状況  
 「野菜生産出荷統計」によると、作付面積は平成21年の1万8,200ヘクタールから平成27年には1万6,100ヘクタールと若干減少傾向にある。出荷量は、平成20年の18万7,000トンが最も多く、年によって変動はあるものの最近では約16万トンとなっている(図1)。平成27年の都道府県別出荷量は1位の北海道が9万3,200トンと全国の58%を占めている。次いで鹿児島県の8,340トン(同5%)、茨城県の6,860トン(同4%)と続く(図2)。東京都中央卸売市場における平成28年の入荷量は春と秋が3,000トン台と最も多く入荷されている(図3)。

輸入状況  
 「日本貿易統計」によると、最近10年間では平成24年に12万5,000トンと最も多いが、おおよそ10万～11万トン台で推移している。輸入先はニュージーランドとメキシコ両国で95%以上を占めている(図4)。

栄養と効用  
 かぼちゃはカロテン、ビタミンC、ビタミンE等のビタミン類を多く含むうえ、炭水化物が多くエネルギー源となる。今では輸入ものと併せて1年中出回っているが、夏に採れたかぼちゃを冬至に食べる習慣があるのは、カロテン豊富なかぼちゃが、風邪の予防になることや、冬は緑黄色野菜が少ないので保存の利くかぼちゃからの栄養補給が大切だったからといわれている。

図1 かぼちゃの作付面積と出荷量

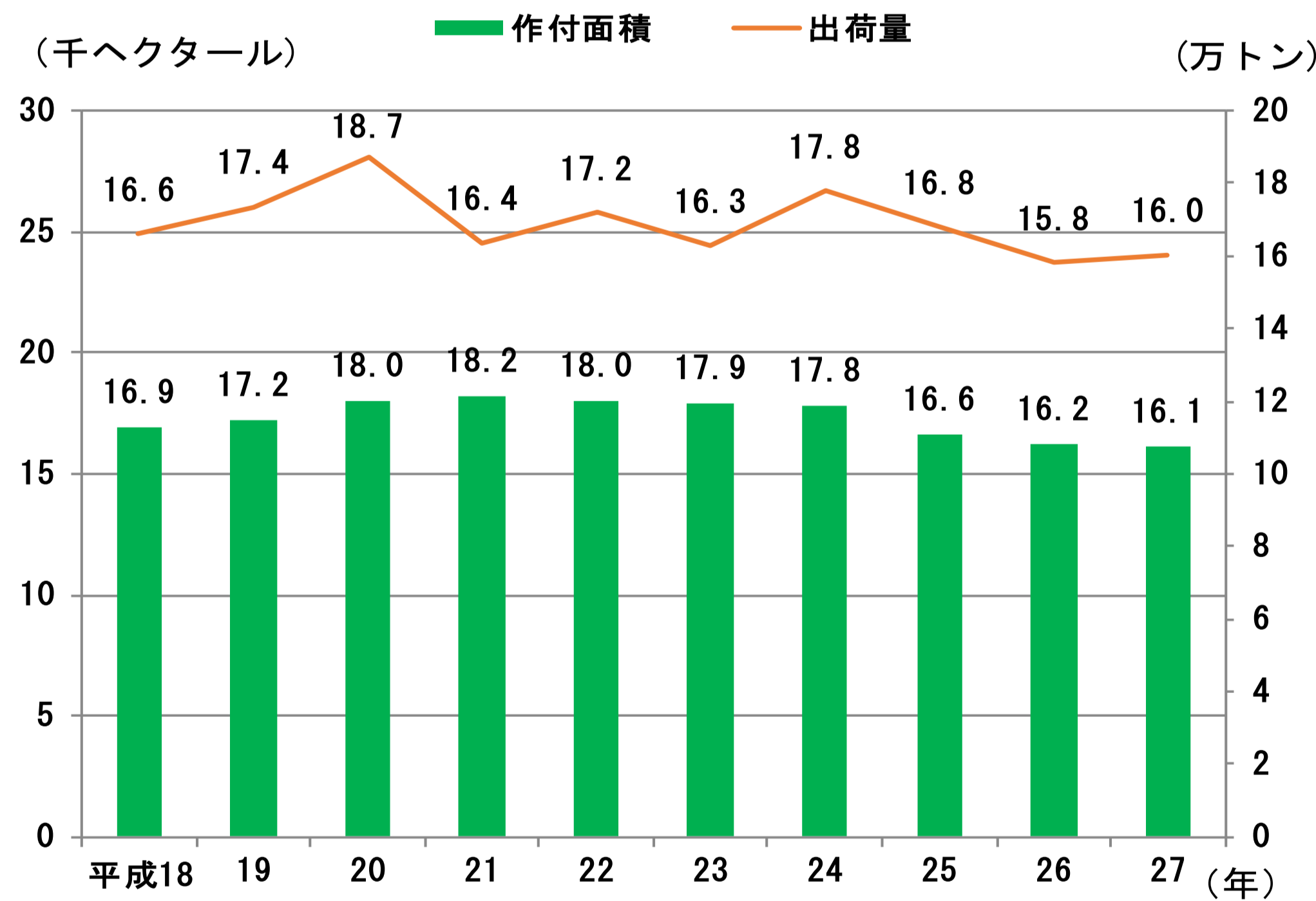


図2 かぼちゃの産地別出荷量(平成27年)

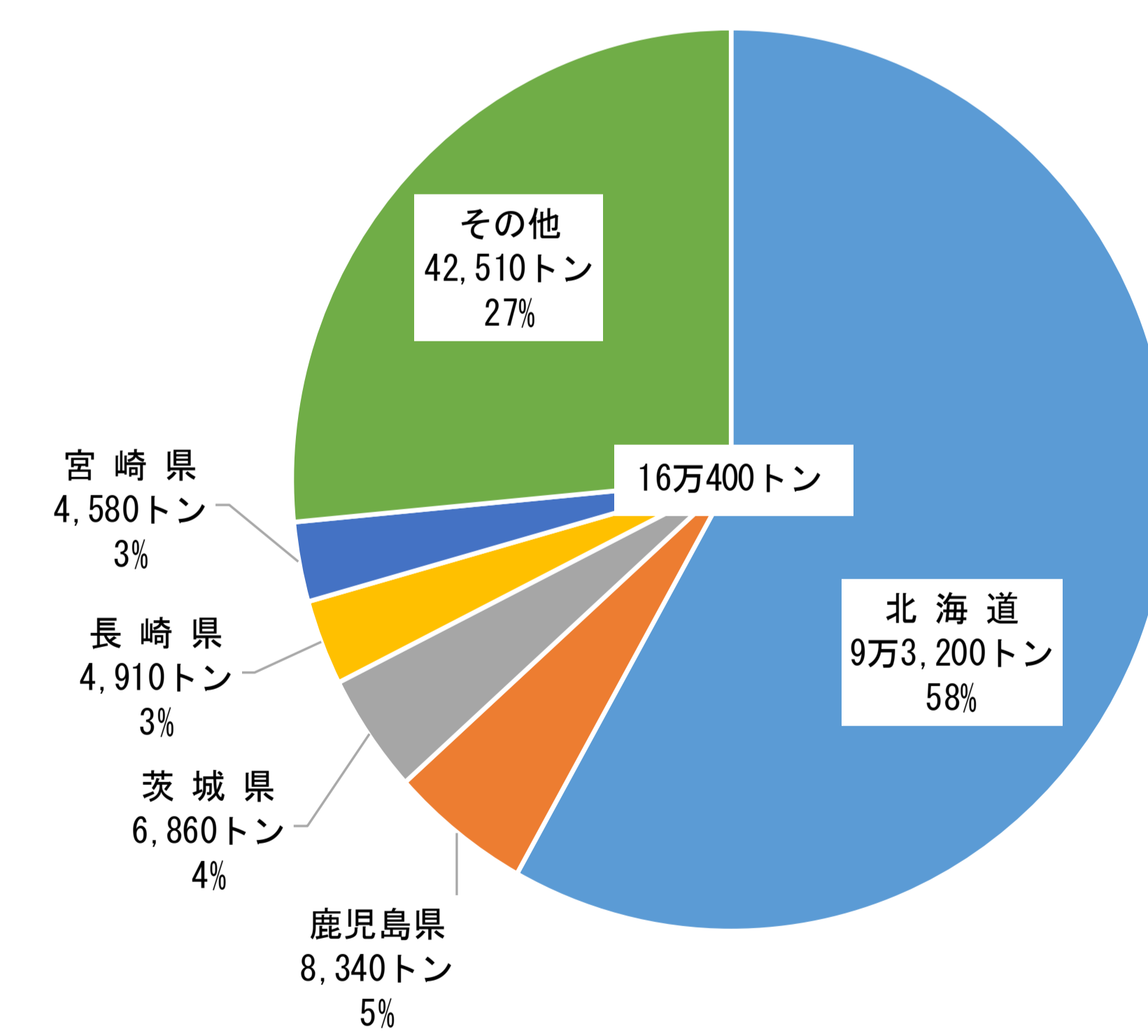


図3 かぼちゃの東京都中央卸売市場月別入荷量(平成28年)

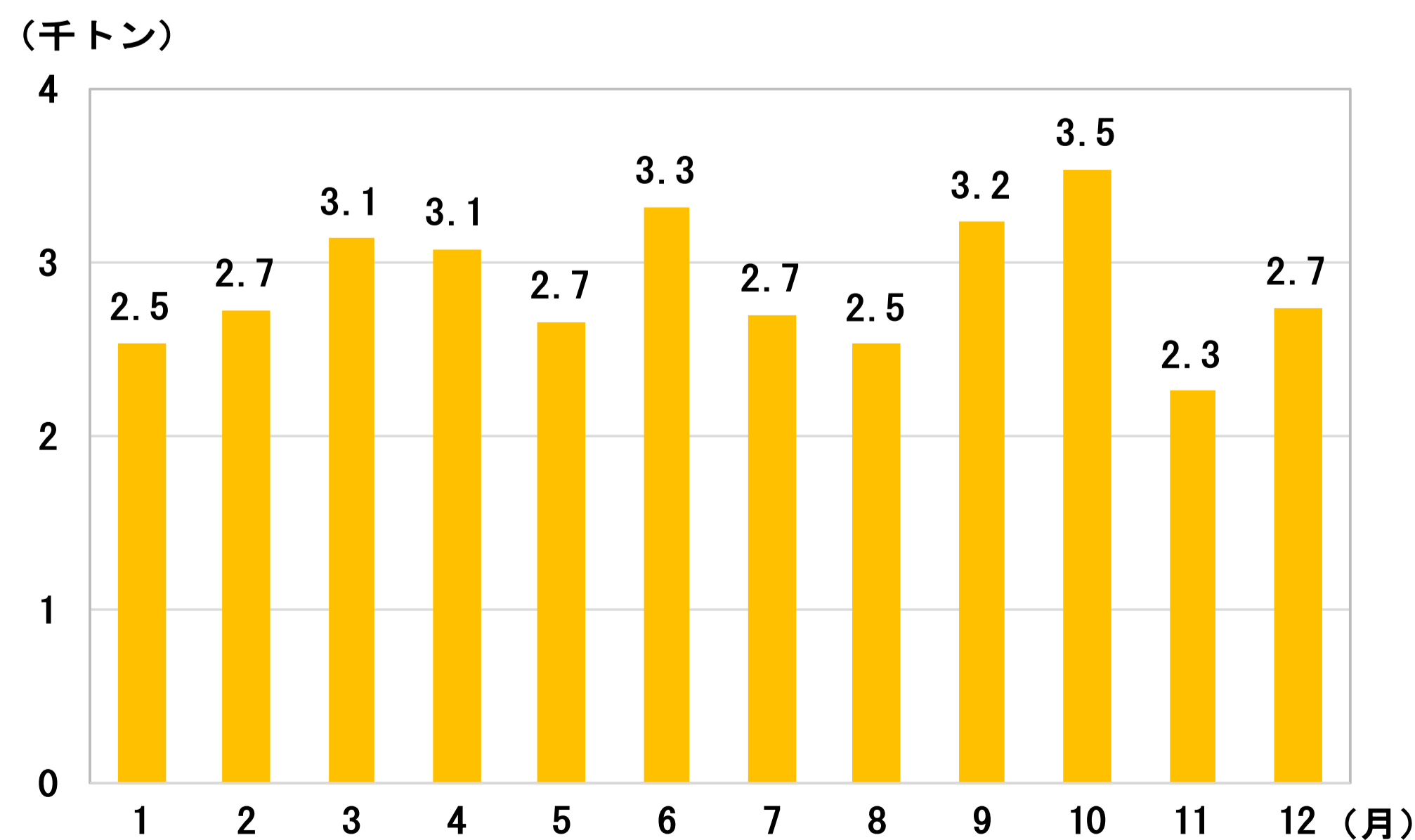
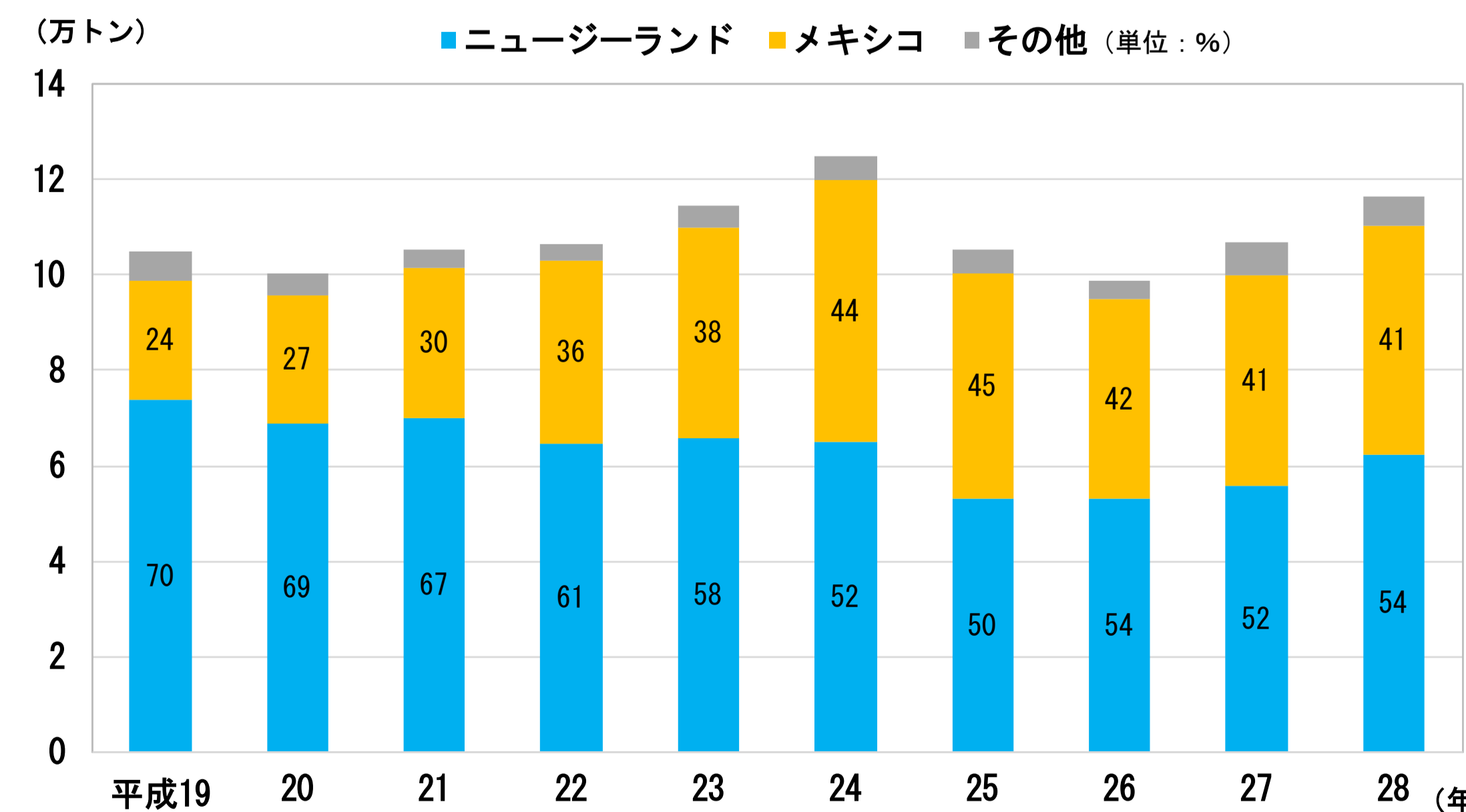


図4 生鮮かぼちゃの国別輸入量



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料: 図1、図2 農林水産省「野菜生産出荷統計」 図3 東京都中央卸売市場「市場統計情報月報」 図4 財務省「日本貿易統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールアドレスから登録してください。  
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\_report.html に掲載しています。  
 ※無断転載せず ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。